

胆石症について

小金井中央病院
外科医 藤原 岳人

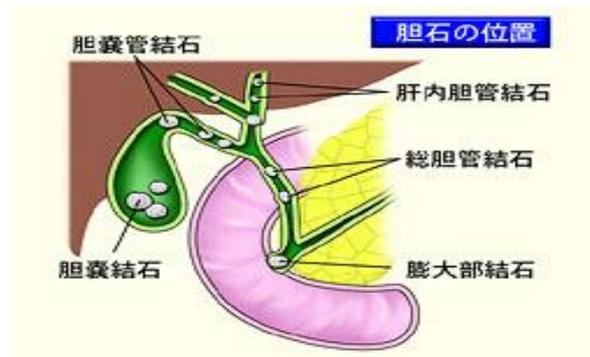
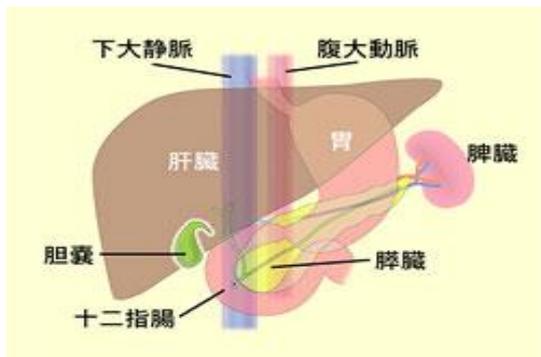
●胆石症とは？

胆のうや胆管に石ができて、時に痛みなどさまざまな症状を引き起こす病気の総称です。

胆汁という一種の消化液は肝臓でつくられ、胆管を通して十二指腸に放出されます。この胆汁によって「胆石」ができてしまうことがあります。

この石は、胆汁が濃縮される胆のうに一番よくできます（胆のう結石）。しかし時には胆管にできてしまうこともあります（胆管結石）。

胆のうにできる結石はコレステロール結石であることが多く、ときには何十個もできることもあります。胆管結石は一個でも激しい症状を引き起こすことがあります。胆のう結石と胆管結石では、病気の起こり方や対処の仕方が異なりますので、分けて説明しましょう。



●胆嚢（たんのう）結石症

【どんなときにこの病気に気づくか？】

- 1) 突然の激しい上腹部痛や右背部痛（疝痛発作）で気づく（急性症状）
- 2) 以前から上腹部や右背部の調子が悪いということで気づく（慢性症状）

上腹部の調子が悪い（「胃が悪い」という感じ方をしている場合があります）、特に食後、主に脂っこいものを食べた後などに上腹部痛や吐き気・食欲不振があり病院にかかって発見されるということも少なくありません。

【検査と診断はどのように行われるか？】

痛みの部位・間隔、起こった経過などを病院でよくお話し下さい。

検査はまず腹部超音波検査（エコー）が行われます。この検査は患者さんに負担が極めて少なく、胆のうの状態や結石を観察することができます。その他、血液検査・X線断層撮影（CT）・胆道造影検査などが行われることもあります。

ただしこのような上腹部の症状は、食道炎、食道潰瘍、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、癌あるいは心筋梗塞などと区別しなければなりませんので、内視鏡検査やそれ以外の検査も必要となる場合があります。

【とりあえずの治療はどうするか？】

疝痛（せんつう）発作のような激しい症状は、ともかく痛みを抑えなければなりません。鎮痛剤や胆のうの緊張をゆるめる薬剤を用います。細菌感染が起こっている場合（急性胆のう炎）は抗菌薬なども用いられます。また重篤な急性胆のう炎を併発している場合は緊急手術（胆嚢摘出術）が必要となります。

しかし手術以外でとりあえず痛みは治まっても根本的な原因である胆石はなくなるわけではありませぬからいつ再発するかわかりませぬ。

石をなくすという根本的な治療に踏み切るかどうかは、医学的な状況判断を病院でよく聞いていただき、患者さんが決断しなければいけません。

【根本治療はどうするか？】

1) 胆石溶解療法

胆石を溶かす薬を内服します（数ヶ月～1年。ただし、硬い石や大きな石の場合は無効）。

2) 手術

胆石を胆のうごと切除してしまう治療です。胆石ができる胆のうは働きに異常があることが多いため一緒に切除します。

最近の手術ではお腹に小さな孔を4箇所あけて、腹腔鏡を入れて手術するという「腹腔鏡視下胆のう摘出術」が主流です。通常の開腹手術より傷が小さく患者さんの負担は軽くなりますが、どちらが適しているかは医学的な判断が必要ですので病院でご相談下さい。

● 胆管結石症

胆管結石は、胆のう結石よりも激しく重い症状を引き起こす場合が少なくありません。細い胆管に石が詰まってしまうわけですから、胆汁の流れが阻害され、上腹部痛や黄疸・肝機能障害が出現します。重篤な急性化膿性胆管炎を併発することもあります。

胆管結石は、①胆のう結石が転がりだして胆のう管や総胆管につまる場合、②胆管の中で石が生じる場合（原発性胆管結石）があります。

いずれも緊急で対処が必要な場合が多く、内視鏡的碎石術（内視鏡で十二指腸から細い器具を胆管に挿入して石をかき出す処置）や、内視鏡的胆道ドレナージ（よどんだ胆汁を体外へ排出する処置）などが必要となります。胆管に病気（狭窄・腫瘍など）がある場合や、石の数が多い場合は手術が必要になることもあります。

● 石があるのに症状がない「無症候性胆石」

偶然の超音波検査などで胆のうに石があるのに本人には全く症状がないということがあります。

症状が無ければそのまま経過を見るという考え方もあります。しかしいつ症状を引き起こすかわかりませぬし、石の刺激で急性胆のう炎を起こすと緊急手術が必要となる場合もあるということをおかなくてはいけません。

こんにちは！デイサービス室です！

小金井中央病院
デイサービス室
生活相談員 篠原利栄

私たち「小金井中央病院デイサービス」では、支援・介護が必要なお年寄りにご自宅と当院の送り迎え、食事や入浴・レクリエーション等のサービスを提供しています。

デイサービスを利用することにより、以下のような効果が期待できます。

1. 社会的交流・気分転換

外出の機会が少なく他者との交流がなかなか難しい方でも、デイサービスで他者と顔なじみの関係を作り、会話や交流を楽しむことができます。

また外に目を向け、多くの人と交わり生活を共にすることで、気分転換が出来ます。



2. 保清（ほせい）

職員見守りの下で安全に入浴が行えます。入浴前に、体温・血圧・脈拍の測定を行い入浴前後には水分補給をし、利用者様の体調管理につとめます。

また体調が悪く入浴できない場合清拭（体を拭く）などして、身体の清潔を保ちます。

3. 栄養管理

自宅ではなかなか難しい、栄養バランスのとれた食事が出来ます。またそれぞれの状態や希望に合わせ、お粥や刻み食も提供しています。

誤飲・誤嚥（喉に詰まらせる）等を防止する為職員が見守っています。

4. 機能維持

デイサービスに通所し、簡単なレクリエーションや手作業などの、機能訓練を行い、歩行練習や体操に参加することで、身体機能の維持を図ります。

また、トイレや浴室への移動、車イスから椅子への移乗、その他デイサービスでの生活自体が、多くの動作を伴っており、機能維持につながります。



5. 介護負担軽減

要介護状態の方をご自宅で介護するという事は、心身共に大変な負担を伴います。デイサービスでは、在宅介護をされているご家族に休息の時間を持っていただき、共に利用者様の介護に携わります。

また、ご家族の悩みや不安を傾聴し、必要に応じた介護に関するアドバイス等もさせていただきます。

現在当デイサービスでは、約100名の利用者様が通所されています。上記の他にも様々な効果が見られ、利用当初よりも笑顔が増えた方、表情が明るくなった方も多くいらっしゃいます。

見学はいつでも受け付けております。デイサービスに興味をお持ちの方、デイサービスがどんな所なのかちょっと覗いてみたいという方も、是非お気軽にお越し下さい。職員一同、お待ちしております。

